

校訓 日々新



若葉


若葉小学校教育目標
豊かな心を持ち、自ら学び、進んで
たくましく行動する若葉の子

令和6年1月24日(水)

No.10 本館 憲和

3学期スタート

令和6年を迎え、学校では各学年のまとめとなる3学期が始まりました。

今年は年が明けてすぐ、元日に能登半島地震、2日には羽田空港の航空機事故と、立て続けに悲しい出来事が起こってしまいました。始業式では、被災地や被害に遭われた方々の気持ちを想像し、その気持ちに寄り添いながら、私たちは私たちにできることをしっかりと進めていこうと話しました。児童会ボランティア委員会でも早速義援金募金を呼びかけ、想いを行動に移すことができます。自他を大切に


する姿勢が着実に育っていることを、とても嬉しく、頼もしく感じます。
1年生から5年生までは42日間、6年生は43日間の短い3学期ですが、次のステップに向けた土台作りをしっかりとできるよう、子どもたちの指導支援にあたってまいります。保護者の皆様からのご理解ご協力を、引き続きよろしく願いいたします。

↓ **3学期始業式での「児童代表の言葉」を紹介します。**

冬休みの思い出と3学期がんばりたいこと

5年1組 藤原由麻

私が冬休みに一番楽しかったことは、冬キャンプに行ったことです。2泊3日で久慈に行って、たくさんさんの経験をしました。昼間は外で雪あそびやそりすべりをしたり、夜はグループでカレーを作ったりしました。とてもおいしく作れました。

2日目は、朝起きたら外の気温が-16℃で、とても寒くてなかなか寝袋から出られませんでした。そしてこの日は柳の木の枝で自分の箸を作りました。人それぞれ個性が出て、とても良い思い出になりました。

3日間はとても充実していて、楽しかった日々があっという間に過ぎてしまったというのを実感しました。

3学期にがんばりたいことは、苦手な教科も諦めないでやってみるということです。例えば、国語の文章問題が得意で、漢字はあまりできないなど、教科の全部ができないわけではないから、自分が得意な物を伸ばすことも大事だけど、できるようになるために苦手な物こそクリアしていかないといけないと考えました。だから、一人勉強の宿題ではぜひ苦手な所もやってみようと思います。

5年生最後の学期として、最高学年の0学期として、自分の目標を達成したいです。

「諦めない」「苦手な物こそ」「最高学年の0学期」など、高い意欲を感じる表現がたくさん！頼もしい！！



大谷翔平選手からの贈り物

大きな話題となっているグローブが本校にも届きました。17日の始業式で全校に紹介し、各学級に回して手に取ってもらい、体育をはじめ授業やその他の活動で実際に使用していく予定です。『このグローブを学校でお互いに共有し、野球を楽しんでもらいたい』という大谷選手の願いをしっかりと受け止めて活用します！

3学期～来年度に向けて

【 素直な心を「育て育む」ことの大切さ 】

どの時代でも我が子に対する保護者の願いは様々ですが、我が子を伸ばしてあげたいという保護者の思いは変わりありません。しかし、子どもそれぞれに違いがあるようにその伸び方にも違いがあります。よく伸びる子どもには、ある一定の特徴が見られます。それは、日々どれだけ素直な心をもって過ごしているかです。これは、保護者や教師の言うことを何でも素直にきくという単純な意味ではなく、物事の受け止め方です。

金メダリストで有名な水泳の北島康介選手を中学2年生から指導してきた平井コーチは、次のように話しています。

彼の強さの要因は、人並みはずれた実力とともに苦しい練習もあるが、実はケタ違いの素直さにある。大勢の才能ある選手の中から抜きん出る選手は、例外なくみんな素直で、才能がある選手でも、人の話を素直に聞き入れられない選手は成長できない。

また、経営の神様として有名な松下幸之助氏は、『素直な心から謙虚さが生み出され、謙虚さから人の話に耳を傾ける姿勢が表れてくる。素直さは、伸びる人の絶対条件である。』という言葉を残しています。素直な心は、自分の能力を磨くだけではなく、物事を成し遂げ、自分の夢を実現させる姿勢として大切なもので、人生を大きく左右するものと言えます。

その素直な心は、人との関わりや様々な体験の中で育まれていきます。大人が子どもに対して「素直さが大切だ。謙虚な気持ちをもちなさい。」と言うだけで、素直さや謙虚さが身に付くものではありません。また、子どもが生まれながらに素直さや謙虚さを身に付けているわけでもありません。大人が子どもの素直さや謙虚さを「育て育む」のです。子どもの言葉にじっくり耳を傾け、たとえ不十分であっても子どもの考えを心で汲み取り、共感的に理解しようとする姿勢を見せることが大切です。そうすることで、子どもは愛情を感じ取り、信頼を深め、本音で話し合える関係が構築され、少しずつ素直な心や感性が育まれていくものと考えます。

日本には、「実るほど頭（こうべ）を垂れる稲穂かな」ということわざがあります。子どもの前に立つ大人の言動に対するとんでもない言葉と言えますが、大人の謙虚な姿勢こそが、子どもの素直さを生むのではないのでしょうか。本校の教職員は、子どもが何でもすべて言われたとおりにすることではなく、「自分で何が正しいかを判断して、自分から進んで行動する」ことができる力を高めていくように指導しています。自分とは異なる友達の考え方・行動の仕方などを認め合い、折り合いをつけながら協力して取り組み、「思いやり」でつながる温かい人間関係を築くことができる若葉小学校を目指していきます。